

【定点把握対象感染症発生状況(定点医療機関あたり患者数)】

小児科定点(7医療機関)

疾病名称\週	2018年			2019年	
	50	51	52	1	2
RSウイルス感染症	1.43	1.29	0.43	1.00	0.43
咽頭結膜熱	0.43	0.29	0.29	0.00	0.29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.57	0.86	1.57	0.00	0.29
感染性胃腸炎	5.86	9.14	6.71	1.00	8.86
水痘	0.71	0.57	0.29	0.00	0.71
手足口病	0.43	0.29	0.29	0.57	0.29
伝染性紅斑	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14
突発性発しん	0.43	0.29	0.29	0.00	0.57
ヘルパンギーナ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.43

インフルエンザ定点(11医療機関)

疾病名称\週	2018年			2019年	
	50	51	52	1	2
インフルエンザ	1.91	4.73	7.36	7.45	29.73

眼科定点(2医療機関)

疾病名称\週	2018年			2019年	
	50	51	52	1	2
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※定点医療機関あたり患者数とは

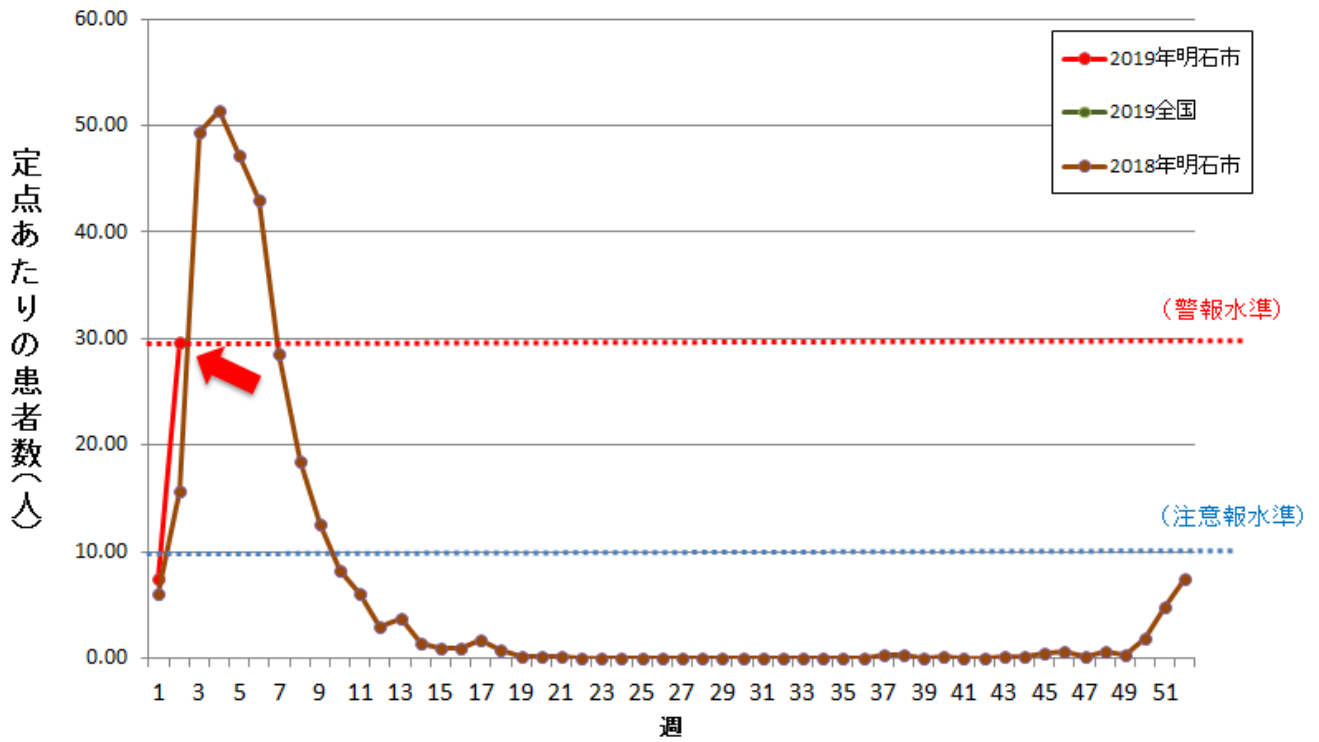
定点医療機関とは、保健所に一定の基準に従い、感染症の発生状況を報告してもらった医療機関のことです。

また、定点医療機関あたり患者数とは、一週間に一つの定点医療機関から、どのくらいの報告があったかを表す数値で、この数値によって各地での感染症の流行を把握することができます。

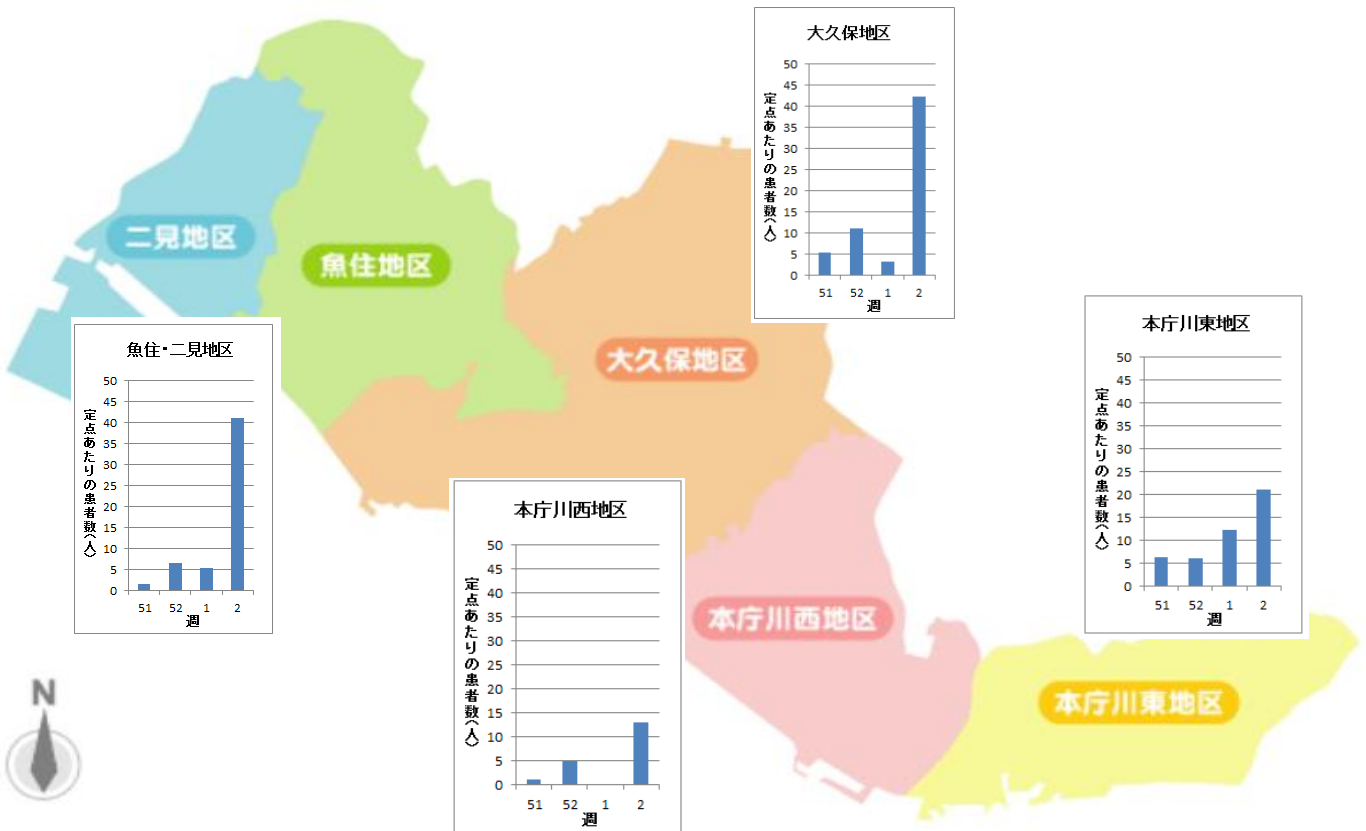
たとえば、あかし保健所管内で感染性胃腸炎の報告が合計20件あったとすると、定点医療機関あたりの患者数は、報告数(20件)をあかし保健所管内の定点医療機関数(7医療機関)で割り算をします。そうすると、定点医療機関あたりの患者数が計算できます。

この場合は、 $20 \div 7 = 2.86$ となります。

定点あたりのインフルエンザ患者報告数



地域別 定点あたりのインフルエンザ患者報告数



【全数把握対象感染症発生状況】

感染症分類	疾病名称\週	2017年	2018年			2019年			
			1週~累計	50	51	52	1	2	1週~累計
二類	結核	69	79		1	1		2	2
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	11						0
	細菌性赤痢		1						0
四類	E型肝炎		1						0
	デング熱		1						0
	日本紅斑熱		1						0
	レジオネラ症	3	12			1	1		1
五類	アメーバ赤痢	2	3						0
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎、E型肝炎を除く)	1	1						0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		2						0
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	23						0
	梅毒	8	11			1			0
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5	2						0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	3						0
	後天性免疫不全症候群	1	2						0
	播種性クリプトコックス症	1	0						0
	百日咳※	-	3						0
	麻疹	2	1						0
	風しん		3			1			0

※百日咳は2018年1月1日から五類感染症の全数届出対象となりました。

インフルエンザが増加しています！

明石市内の定点医療機関あたりの患者数が、2019年第2週に29.73人となり、インフルエンザの注意報レベルである10.00人を大幅に超えました(2019年第1週 7.45人)。今後も患者数の増加が予想されることから、注意が必要です。

インフルエンザを予防する有効な方法

- ・ワクチン接種
- ・外出後の手洗い等
- ・適度な湿度の保持
- ・十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- ・人混みや繁華街への外出を控える

インフルエンザにかかったら

- ・人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう。
- ・咳やくしゃみ等の症状のある時は、家族や周りの方へうつさないように、飛沫感染対策としての咳エチケットを徹底しましょう。
- ・安静にして、休養をとりましょう。特に、睡眠を十分にとることが大切です。
- ・水分を十分に補給しましょう。お茶でもスープでも飲みたいもので結構です。
- ・高熱が出る、呼吸が苦しいなど具合が悪ければ早めに医療機関を受診しましょう。